

05 法務省(特区14次提案 検討要請).xls

| 提案事項<br>管理番号 | 要望事項<br>(事項名)   | 求める措置の具体的内容  | 具体的事業の実施内容・提案理由   | プロジェクト名                   | 提案主体名                     | 都道府県 | 制度の所管・関係<br>府省庁 |
|--------------|---|--|---|---------------------------|---------------------------|------|-----------------|
| 1032010      | 国際観光船(クルーズ船)において、一連の日程の中で、一旦入国したのち、外国に寄港し、再度入国する外国人の入国審査の緩和について | 出入国管理及び難民認定法第6条に規定されている、“本邦に上陸しようとする外国人は、入国審査官に対し上陸の申請をして、上陸のための審査を受け、個人識別情報(指紋、写真その他の個人を識別することができる情報)を提供しなければならない”という箇所の運用について、国際観光船において、一連の日程の中で、一旦入国したのち、外国に寄港し、再度入国する外国人の入国審査取扱い内容の緩和。 | <p>長崎港においては、例年、多数の国際観光船の入港実績を上げているが、この法律の該当箇所の改正及び施行に伴う指紋採取及び写真撮影の実施は、乗客全員の対処に多くの時間を要するため、乗客にかなりの負担をかけている現状にある。</p> <p>特に、日本への入国手続きが複数回必要となるツアーの場合はその傾向が顕著であり、実際、この点を懸念するクルーズ運航会社が、長崎港入港を複数回にわたりキャンセルするという事実が発生している。</p> <p>この法律の該当箇所は、米国における大規模テロ発生に伴い、テロの未然防止のために設定されたものであるが、そもそもこの法律改正は、飛行機による空港使用時におけるチェックを厳しく行う空港主体のものではないかと思慮される。本件の国際観光船のクルーズのように、一定のまとまった団体が、一連の行程の中で複数回にわたり日本への入国・出国を繰り返すケースにおいては、最初の入国の際に個人識別情報を提供しているため、2度目の入国以降の取り扱いについては手続きを簡素化し、迅速化を図ることは十分可能であると推測される。</p> <p>また、国の施策であるビジット・ジャパン・キャンペーンを推進している流れに加え、平成20年10月に観光庁が新設されるなどの観光立国を推進する動きがあるなか、現行の取り扱いはこの流れを阻害する一因となる懸念があることから、今回、この法律の運用について規制緩和を提案するものである。</p> | 長崎市                       | 長崎市                       | 長崎県  | 法務省             |
| 1069010      | JETプログラム(ALT)卒業生の観光事業における就労機会の拡大                                | ALTとして「教育」の在留資格で就業していたJETプログラムの卒業生が、観光事業で就業できるように、「人文知識・国際業務」の在留資格の取得を可能にしていきたい。   | <p>観光庁設立に伴い、今後需要が拡大していくと思われる観光事業において、日本での就業経験のあるJET卒業生を活用する。</p> <p>特に「教育」の在留資格でALTとして就業していたJET卒業生は、日本文化にも精通しており、今後、日本での観光事業の発展に十分に寄与していただけると考える。彼ら・彼女らはJETプログラムの終了後も日本での就業を希望しているが、就業先が見つからず、やむを得ず帰国するという現状である。JETプログラム卒業後、観光事業での就業ができるように「人文知識・国際業務」の在留資格の取得を可能にしていきたい。</p>   | 株式会社パソナグループ<br>シャドーキャビネット | 株式会社パソナグループ<br>シャドーキャビネット | 東京都  | 法務省             |

05 法務省(特区14次提案 検討要請).xls

| 提案事項<br>管理番号 | 要望事項<br>(事項名)                                     | 求める措置の具体的内容  | 具体的事業の実施内容・提案理由  | プロジェクト名 | 提案主体名 | 都道府県 | 制度の所管・関係<br>府省庁     |
|--------------|---|--|--|---------|-------|------|---------------------|
| 1071060      | 「投資・経営」、「技術」、「人文知識・国際業務」の在留資格を有する外国人の親への長期在留資格の付与 | 成長産業分野であって資本金1億円以上の本社設置外資系企業について、在留資格「投資・経営」「技術」「人文知識・国際業務」を有する外国人在籍者の親の活動を、在留資格「特定活動」に追加する。   | <p>兵庫・神戸は、開港以来、国際都市として発展してきた歴史を有し、外国・外資系企業の経済活動が活発で、世界的な外資系企業が本社を設置している。これら大企業は地域経済に大きく寄与するなか、とりわけ、成長事業を展開する企業活動は、今後の地域経済の発展において極めて重要である。</p> <p>これら成長事業を展開する大企業の外国人経営者や社員は当地域において必要不可欠な人材である。これら外国人企業関係者については、親の扶養を必要とする場合、親の在留期間が短期であるために、自身の活動のための入国や必要な期間での在留にも影響が生じているという問題があり、そうした課題に向けた対応方策を求めるものである。</p>   |         | 兵庫県   | 兵庫県  | 警察庁<br>法務省<br>厚生労働省 |
| 1071070      | 「企業内転勤」の転勤前関連業務従事要件の緩和                            | 成長産業分野の外国・外資系企業に勤務する者が、別企業で3年以上の同職種の実務経験を有する場合、外国の企業から同社の日本支店への海外転勤に適用される在留資格「企業内転勤」について、要求される当該企業における関連業務経験期間を「1年以上」から「6ヶ月以上」に緩和する。 | <p>兵庫・神戸は、開港以来、国際都市として発展してきた歴史を有し、外国・外資系企業の経済活動が活発で、地域経済を支える大きな柱となっている。このような中、とりわけ、成長産業分野における海外からの新たなビジネス手法やマネジメントシステムの導入の一層の促進は、今後の地域経済の活性化・発展において極めて重要である。</p> <p>上記に鑑み、兵庫県では、産業の集積による経済及び雇用の活性化に関する条例(産業集積条例)を制定するなど、成長産業分野の外国・外資系企業の立地・集積の促進を図っているところである。</p> <p>これら企業の定着や新たな企業進出を促進するためには、ビジネスの状況に柔軟に対応でき、時期を失することなく適切な人材を確保・配置できる状況を整えることが不可欠である。このことから、ビジネス展開上のニーズに対応できる、柔軟性を持った方策の検討を求めるものである。</p> |         | 兵庫県   | 兵庫県  | 法務省<br>厚生労働省        |

## 05 法務省(特区14次提案 検討要請).xls

| 提案事項<br>管理番号 | 要望事項<br>(事項名)              | 求める措置の具体的内容  | 具体的事業の実施内容・提案理由  | プロジェクト名 | 提案主体名            | 都道府県 | 制度の所管・関係<br>府省庁 |
|--------------|----------------------------|--|--|---------|------------------|------|-----------------|
| 1072020      | 再入国許可の有効期間の延長              | 再入国許可申請の有効期間は通常3年であるが、外国人研究者の場合、在留期間が最大5年に延長されていることから、「再入国許可の有効期間の延長」を可能とする。   | <p>世界最大の大型放射光施設SPring-8を擁し、先端分野に関わる放射光研究が展開されている播磨科学公園都市の特性を活かし、これまで外国人研究者の受入れ促進を図ってきた。さらに再入国許可申請の見直しにより外国人研究者の受入環境を整え、人材の集積を強化し、研究開発成果の実用化や新産業創出による地域全体の経済活性化を目指す。</p> <p>提案理由：<br/>播磨科学公園都市では外国人研究者が最大5年間の在留期間を利用して研究プロジェクト等に参加している。研究内容によっては海外の研究機関や学会等への出張も多く、頻繁に再入国を繰り返すが、再入国許可申請ではその有効期間は通常最大3年であり、在留期間中に再度申請を行わなければならない。</p> <p>再入国許可全体について、平成20年3月に提言された法務大臣の私的懇談会である「出入国管理政策懇談会」による検討結果を踏まえて、見直しを行い措置することであるが、再入国許可の期間の上限を在留期間と合わせる、あるいは申請に基づいて再入国許可の有効期間の延長を可能とすることで、研究者の負担を軽減していただきたい。</p>  |         | 兵庫県、たつの市、上郡町、佐用町 | 兵庫県  | 法務省             |
| 1072030      | 在留資格「人文知識・国際業務」の実務経験年数の緩和等 | 「特定家族滞在活動」で在留している外国人研究者の配偶者について、母国語を活用して就労するために「人文知識・国際業務」(うち国際業務)へ在留資格の変更を行う場合に要求される実務経験年数(3年以上)の緩和、あるいは当該要件に替わる新たな評価基準の設定を求める。 | <p>世界最大の大型放射光施設SPring-8を擁し、先端分野に関わる放射光研究が展開されている播磨科学公園都市の特性を活かし、これまで外国人研究者の受入れ促進を図ってきた。外国人研究者の配偶者についても社会活動への積極的な参加を可能とすることで、家族での滞在がしやすくなり、より魅力的な研究環境の提供が可能となる。これにより、優秀な人材の集積を図り、研究開発成果の実用化や新産業創出による地域全体の経済活性化を目指す。</p> <p>提案理由：<br/>播磨科学公園都市では外国人研究者が特例措置を活用し、長期(最大5年間)で研究プロジェクト等へ参加している。多くの外国人研究者は家族での滞在を望んでいるが、長期滞在のため家族も積極的な社会活動への参加を希望しており、日本の生活における障害となっている。</p> <p>そこで、「特定家族滞在活動」の資格を持つ外国人研究者の配偶者が母国語を活用して外国語学校等で就労するため、「人文知識・国際業務」(うち国際業務)に在留資格を変更する場合に要求される実務経験年数要件の緩和、あるいはこれに替わる新たな評価基準を設定することで、積極的な社会活動への参加を可能とし、外国人研究者の受入れ環境の向上を図りたい。</p> |         | 兵庫県、たつの市、上郡町、佐用町 | 兵庫県  | 法務省<br>厚生労働省    |

05 法務省(特区14次提案 検討要請).xls

| 提案事項<br>管理番号 | 要望事項<br>(事項名)      | 求める措置の具体的内容   | 具体的事業の実施内容・提案理由   | プロジェクト名 | 提案主体名 | 都道府県 | 制度の所管・関係<br>府省庁 |
|--------------|--------------------|---|---|---------|-------|------|-----------------|
| 1001010      | 売春行為の条件付き合法化特区     | 売春防止法により、国内で禁止されている売春行為について、一定の要件を満たした場合には特区内での営業を認可する。具体的には国に認可された自治体内の特定地域の建物内における、指定設備を有する室内で売春行為の営業を許可する。 | <p>(1)提案理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出会い系サイトなど形を変えた売春行為が公然と行われるようになり、何かしらの規制をしない限り社会秩序が悪化する一方である。</li> <li>・性に関する情報だけが氾濫し合法的に性的サービスを提供する場が少ないため、性の低年齢化や性的対象者の拡大による性感染症の蔓延、性犯罪などの原因になっている。</li> <li>・売春防止法により売春行為そのものが違法とされているため、従事する女性や利用者が置き引きや暴行などの被害にあっても警察に訴える事ができず、売春防止法による規制がかえって危険な状況をつくり出している。</li> <li>・ソープランドなどで、売春行為が行われていても、「本人同士の合意」があれば取り締まる事ができないため、売春防止法による規制が有名無実化し実質的に野放し状態になっている。</li> <li>・憲法で保障された国民が幸福を追求する権利、具体的には独身者や身体障害者が性行為をする権利を阻害している。</li> <li>・周辺環境にできるだけ影響を与えない方法での売春行為の合法化は、性犯罪の減少が期待できストレスの少ない社会が実現できる。</li> </ul> <p>(2)代替措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特区内での「売春行為における業務の適正化に関する規則」を定める。</li> </ul> |         | 個人    | 青森県  | 警察庁<br>法務省      |
| 1023010      | 商業・法人登記業務の行政書士への解放 | 行政書士業務に付随する商業・法人登記を行政書士が代理人として行うことを認めること。   | <p>商業・法人登記は許認可申請の前提とされる場合が多く、定款作成と登記後の許認可申請は行政書士が行う一方、間に挟まれた商業・法人登記だけが司法書士が行うという現実、正に業際問題によって国民の利便を阻害し負担を加重する障壁となっている。</p> <p>規制改革会議の中間とりまとめ(平成20年7月2日)は「資格者業務が細分化される中で、業際業務参入への適切な対応が、利用者である国民の利便性の向上に資する場合」もあると指摘するとおり、国民(会社)の権利義務を保全しつつ上記障壁を解消するために現行制度をどう改変するかが議論のスタートである。</p> <p>そこで規制改革要望本年6月分「5075002」において主張したとおり、試験制度の見直しや認定行政書士制度の創設したうえで「行政書士業務に付随する商業・法人登記のうち比較的簡単な登記に限定」した、行政書士への同業務の部分開放を提案する。</p>   |         | 個人    | 京都府  | 法務省             |

05 法務省(特区14次提案 検討要請).xls

| 提案事項<br>管理番号 | 要望事項<br>(事項名)      | 求める措置の具体的内容   | 具体的事業の実施内容・提案理由  | プロジェクト名 | 提案主体名 | 都道府県 | 制度の所管・関係<br>府省庁 |
|--------------|--------------------|---|--|---------|-------|------|-----------------|
| 1036010      | 商業・法人登記業務の行政書士への開放 | 行政書士の業務である定款作成、総会議事録作成業務に伴う場合に、付随業務として行政書士に商業・法人登記業務を認容される措置。具体的内容には司法書士法第73条第1項但書『他の法律に別段の定めがある場合は、この限りでない』に回答した例外規定として、行政書士が付随業務として商業・法人登記を行うことができる旨を明文化する。 | 行政書士は許認可業務に必要な、法人のあり方内容を一番理解出来る立場にあり、その実情を他の士業者より多く知る立場にあります。行政書士が行う許認可業務の要件は複雑で多岐にわたり、商業・法人登記はその許認可に合う要件を充足できる内容で行わなければなりません。当初から関与している行政書士が業務に付随する範囲内で登記に関与する方が、許認可に精通していない司法書士に登記を委ねるよりも、国民の利益になり利便の増進に繋がると考えます。全ては国民の利益のため、この強い意志があるならば前向きに検討していただきたい。貴省は縦割行政に起因する省益優先の既得権益に汲々とするべきではありません。商業・法人登記業務の開放は国民の利益のためという観点から考えると、行政書士の業務実態を把握しながら、行政書士に業務遂行能力があるか否かを広島県において一定期間実証実験を行うよう措置を講じるべきであると考えます。                           |         | 個人    | 広島県  | 法務省             |
| 1037010      | 商業・法人登記業務の行政書士への開放 | 行政書士が受託した許認可申請に伴う場合に限って、付随業務として行政書士に商業・法人登記業務を認容される措置。具体的内容には司法書士法第73条第1項但書『他の法律に別段の定めがある場合は、この限りでない』に回答した例外規定として、行政書士が付随業務として商業・法人登記を行うことができる旨を明文化する。        | 行政書士は法人等に対し多様な業務を通じ多様な側面から継続的に接触し、その実情を他の士業者より多く知る立場にあります。また相談業務等を通じ法人の実体の形成過程に関与しています。行政書士が行う許認可業務の要件は複雑で多岐にわたり、商業・法人登記はその許認可に合う要件を充足できる内容で行わなければなりません。当初から関与している行政書士が業務に付随する範囲内で登記に関与する方が、許認可に精通していない司法書士に登記を委ねるよりも、国民の利益になり利便の増進に繋がると考えます。全ては国民の利益のため、この強い意志があるならば前向きに検討していただきたい。貴省は縦割行政に起因する省益優先の既得権益に汲々とするべきではありません。商業・法人登記業務の開放は国民の利益のためという観点から考えると、行政書士の業務実態を把握しながら、行政書士に業務遂行能力があるか否かを広島県において一定期間実証実験を行うよう措置を講じるべきであると考えます。 |         | 個人    | 広島県  | 法務省             |

05 法務省(特区14次提案 検討要請).xls

| 提案事項<br>管理番号 | 要望事項<br>(事項名)          | 求める措置の具体的内容  | 具体的事業の実施内容・提案理由   | プロジェクト名 | 提案主体名 | 都道府県 | 制度の所管・関係<br>府省庁 |
|--------------|------------------------|--|---|---------|-------|------|-----------------|
| 1044010      | 商業・法人登記業務の行政書士への<br>開放 | 行政書士が受託した許認可申請に伴う場合に<br>限って、付随業務として行政書士に商業・法人<br>登記業務を認容される措置。具体的内容には司<br>法書士法第73条第1項但書『他の法律に別段の<br>定めがある場合は、この限りでない』に回答した<br>例外規定として、行政書士が付随業務として商<br>業・法人登記を行うことができる旨を明文化す<br>る。 | 行政書士は法人等に対し多様な業務を通じ多様な側面から継続的に接触し、その実情を他の<br>士業者より多く知る立場にあります。また相談業務等を通じ法人の実体の形成過程に関与して<br>います。行政書士が行う許認可業務の要件は複雑で多岐にわたり、商業・法人登記はその許<br>認可に合う要件を充足できうる内容で行わなければなりません。当初から関与している行政書<br>士が業務に付随する範囲内で登記に関与する方が、許認可に精通していない司法書士に登<br>記を委ねるよりも、国民の利益になり利便の増進に繋がると考えます。全ては国民の利益のた<br>め、この強い意志があるならば前向きに検討していただきたい。貴省は縦割行政に起因する省<br>益優先の既得権益に汲々とするべきではありません。<br>商業・法人登記業務の開放は国民の利益のためという観点から考えると、行政書士の業務実<br>態を把握しながら、行政書士に業務遂行能力があるか否かを広島県において一定期間実証<br>実験を行うよう措置を講じるべきであると考えます。 |         | 個人    | 広島県  | 法務省             |
| 1045010      | 商業・法人登記業務の行政書士への<br>開放 | 行政書士が受託した許認可申請に伴う場合に<br>限って、付随業務として行政書士に商業・法人<br>登記業務を認容される措置。具体的内容には司<br>法書士法第73条第1項但書『他の法律に別段の<br>定めがある場合は、この限りでない』に回答した<br>例外規定として、行政書士が付随業務として商<br>業・法人登記を行うことができる旨を明文化す<br>る。 | 行政書士は法人等に対し多様な業務を通じ多様な側面から継続的に接触し、その実情を他の<br>士業者より多く知る立場にあります。また相談業務等を通じ法人の実体の形成過程に関与して<br>います。行政書士が行う許認可業務の要件は複雑で多岐にわたり、商業・法人登記はその許<br>認可に合う要件を充足できうる内容で行わなければなりません。当初から関与している行政書<br>士が業務に付随する範囲内で登記に関与する方が、許認可に精通していない司法書士に登<br>記を委ねるよりも、国民の利益になり利便の増進に繋がると考えます。全ては国民の利益のた<br>め、この強い意志があるならば前向きに検討していただきたい。貴省は縦割行政に起因する省<br>益優先の既得権益に汲々とするべきではありません。<br>商業・法人登記業務の開放は国民の利益のためという観点から考えると、行政書士の業務実<br>態を把握しながら、行政書士に業務遂行能力があるか否かを広島県において一定期間実証<br>実験を行うよう措置を講じるべきであると考えます。 |         | 個人    | 広島県  | 法務省             |

05 法務省(特区14次提案 検討要請).xls

| 提案事項<br>管理番号 | 要望事項<br>(事項名)          | 求める措置の具体的内容  | 具体的事業の実施内容・提案理由   | プロジェクト名 | 提案主体名 | 都道府県 | 制度の所管・関係<br>府省庁 |
|--------------|------------------------|--|---|---------|-------|------|-----------------|
| 1047010      | 商業・法人登記業務の行政書士への<br>開放 | 行政書士が受託した許認可申請に伴う場合に<br>限って、付随業務として行政書士に商業・法人<br>登記業務を認容される措置。具体的内容には司<br>法書士法第73条第1項但書『他の法律に別段の<br>定めがある場合は、この限りでない』に回答した<br>例外規定として、行政書士が付随業務として商<br>業・法人登記を行うことができる旨を明文化す<br>る。 | 行政書士は法人等に対し多様な業務を通じ多様な側面から継続的に接触し、その実情を他の<br>士業者より多く知る立場にあります。また相談業務等を通じ法人の実体の形成過程に関与して<br>います。行政書士が行う許認可業務の要件は複雑で多岐にわたり、商業・法人登記はその許<br>認可に合う要件を充足できうる内容で行わなければなりません。当初から関与している行政書<br>士が業務に付随する範囲内で登記に関与する方が、許認可に精通していない司法書士に登<br>記を委ねるよりも、国民の利益になり利便の増進に繋がると考えます。全ては国民の利益のた<br>め、この強い意志があるならば前向きに検討していただきたい。貴省は縦割行政に起因する省<br>益優先の既得権益に汲々とするべきではありません。<br>商業・法人登記業務の開放は国民の利益のためという観点から考えると、行政書士の業務実<br>態を把握しながら、行政書士に業務遂行能力があるか否かを広島県において一定期間実証<br>実験を行うよう措置を講じるべきであると考えます。 |         | 個人    | 広島県  | 法務省             |
| 1075010      | 商業・法人登記業務の行政書士への<br>開放 | 行政書士が受託した許認可申請に伴う場合に<br>限って、付随業務として行政書士に商業・法人<br>登記業務を認容される措置。具体的内容には司<br>法書士法第73条第1項但書『他の法律に別段の<br>定めがある場合は、この限りでない』に回答した<br>例外規定として、行政書士が付随業務として商<br>業・法人登記を行うことができる旨を明文化す<br>る。 | 行政書士は法人等に対し多様な業務を通じ多様な側面から継続的に接触し、その実情を他の<br>士業者より多く知る立場にあります。また相談業務等を通じ法人の実体の形成過程に関与して<br>います。行政書士が行う許認可業務の要件は複雑で多岐にわたり、商業・法人登記はその許<br>認可に合う要件を充足できうる内容で行わなければなりません。当初から関与している行政書<br>士が業務に付随する範囲内で登記に関与する方が、許認可に精通していない司法書士に登<br>記を委ねるよりも、国民の利益になり利便の増進に繋がると考えます。全ては国民の利益のた<br>め、この強い意志があるならば前向きに検討していただきたい。貴省は縦割行政に起因する省<br>益優先の既得権益に汲々とするべきではありません。<br>商業・法人登記業務の開放は国民の利益のためという観点から考えると、行政書士の業務実<br>態を把握しながら、行政書士に業務遂行能力があるか否かを広島県において一定期間実証<br>実験を行うよう措置を講じるべきであると考えます。 |         | 個人    | 広島県  | 法務省             |

05 法務省(特区14次提案 検討要請).xls

| 提案事項<br>管理番号 | 要望事項<br>(事項名)                       | 求める措置の具体的内容   | 具体的事業の実施内容・提案理由  | プロジェクト名 | 提案主体名 | 都道府県 | 制度の所管・関係<br>府省庁 |
|--------------|-------------------------------------|---|--|---------|-------|------|-----------------|
| 1063010      | オンライン商業登記の際に行政書士電子証明書の使用を可能にしていきたい。 | <p>1. 現在、公認会計士に認められている商業登記の代理権を、行政書士にも認めて頂きたい。</p> <p>2. 具体的には、司法書士法の改正、もしくは法務省通達を出して頂きたい。</p> <p>3. 試験的に特区にて実施することも検討して頂きたい。</p> <p>4. 政府が推進する電子政府・電子申請の実現のため、上記の代理権はオンラインの登記申請に限定したもので結構です。</p> | <p>日本は長期にわたる景気低迷を経て、「起業しやすい社会」を目指して大きな制度変革を行ってきました。</p> <p>会社法の制定はその代表で、最低資本金の撤廃などは起業したいと思う市民にとってチャンスが大きく広がったものといえます。</p> <p>しかし、その反面、会社の登記を依頼することができる専門家は司法書士とされており、起業家の方々の多様なニーズに応えることができていません。</p> <p>行政書士は、営業許可の取得手続きの支援を行っているため、会社の登記まで行えるようになれば、起業家の時間・費用を節約することができます。</p> <p>たとえば定款は、「会社の憲法」とも言われるように、会社の基幹事項を決定する重要な書類です。</p> <p>行政書士は、会社の定款を作成する専門家であり、日本公証人連合会から業務として定款の代理作成をすることが可能である旨の公式見解が出されている唯一の資格でもあります。</p> <p>これに対して、登記申請自体は、定款等で決定した事項を、単純に登記情報に反映させるだけの定型的な申請であるといえます。</p> <p>もし国民に不利益が生じるとお考えの場合には、本当に具体的な問題が生じるかどうかについて、特区で検証することも可能だと思います。</p> <p>また、商業登記法についての知識が行政書士に担保されていないとするのであれば、行政書士に研修を課すということも可能だと思われます。</p> <p>なお、政府が推進する電子政府・電子申請の実現のため、上記の代理権はオンラインの登記申請に限定したもので結構です。</p> <p>司法書士でも、オンライン申請に習熟できていない事務所が多数あることから、司法書士以外にも国民の受け皿の拡充を図る必要性が高いと思われます。</p> |         | 個人    | 滋賀県  | 法務省             |